

芸は身を助く

これながしゅうじ
うさ 宇佐市長(大分県) 是永修治



宇佐神宮上宮と大楠

宇佐市は九州北部、国東半島の付け根に位置する人口約5万5千人のまちです。自慢は全国に約4万社ある八幡さまの総本宮である国宝宇佐神宮、69連勝の昭和の大横綱双葉山、「いいちこ」ブランドに代表される麦焼酎の生産量、いずれも日本一です。平成17年に安心院町、院内町と合併し、新たに鍔絵やグリーンツーリズム、石橋や宇佐のマチュピチュなどがお国自慢に加わりました。

遠浅の海岸、平野部、中山間および森林地域を有し、古代より畿内との交易で栄え

ました。江戸時代に小藩分立となりましたが、合併により律令時代の版図に戻りました。近年、自動車関連企業の立地が進み、地場産業と併せ田園工業都市となっています。

グルメも豊富で、からあげはテークアウト専門店発祥の地、味一ねぎ、安心院のぶどうやすつぽん、院内のどじょうと賑やかです。どじょうは養殖日本一で、どじょう料理の老舗駒形どぜうで味わえます。

郷土愛に目覚めた学生時代

昭和31年、地元生まれ、地元で育ち、昭和49年、立命館大学へ進学しました。歴史好きだった私は、学業そっちのけで神社仏閣を巡り、歴史小説を読みあさりました。そんな時、地元が登場する司馬遼太郎先生の『街道をゆく』や、松本清張先生の『陸行水行』と出会いました(昭和を代表する巨匠が郷土宇佐を取り上げている。宇佐って何て凄いとこなんだ)。驚きと誇りを覚えると同時に郷土愛に目覚めたのです。

県庁マンから市長へ

昭和54年、大分県庁に採用され、4年後、東京事務所勤務となりました。ある朝、事務所の電話に出ると「松本だがね、平松君おるか」の声。平松君とは一村一品運動の平松守彦知事(当時)のことです。「平松君」という松本さんは一体何者なのかと思いつ

つ、「どちらの松本さんでしょうか」と尋ねると「松本清張だがね」との返答にびっくり。冷や汗をかきながら本庁に取り次ぎました。当時、平松知事が清張先生に大分県を題材とした小説の作成を依頼していたのでした。今でも清張先生の肉声が耳に残っています。

その後、財政畑を中心に各部署を歩き、平成19年、宇佐市と隣接した中津市へ副市長として出向しました。2年後、宇佐市長選へ挑戦、現在に至っています。

芸は身を助く

市長職は激務の日々ですが、県庁時代を含め趣味の芸が役に立っています。

一つ目は「歴史好き」です。先ほど紹介した両巨匠に加え、童門冬二先生の作品を好んで読んでいます。童門先生には、合併10周年の記念講演をお引き受けいただきました。現在、市報に市長コラムを連載していますが、宇佐神宮や先の大戦中に存在した宇佐海軍航空隊(以下「宇佐空」という)など、地元の歴史話が中心です。

宇佐神宮周辺については、勅使街道の美化など国土交通省の街なみ環境整備事業を実施中です。余談ですが、EXILEのÜSAさんが宇佐神宮の樹齢800年の大楠に手を当ててヒット祈願したところ、ミリオンスターになったそうです。以来、ÜSAさんは本市を盛り上げてくれてい



友好都市協定を締結したカーク・コードウェル ホノルル市長と

ます。

また、宇佐空については平和ミュージアム構想に基づき、軍用機を空襲から守る掩体壕等の遺構群を保存しており、将来、拠点施設の整備を予定しています。宇佐空の教官が真珠湾攻撃の最初の爆弾を投じたことや、特攻基地となった戦争末期に米軍から空襲を受けたことなどの縁により、昨年、ホノルル市と友好都市協定を締結しました。

さらに、郷土の偉人を宇佐学マンガシリーズとして発刊しています。本草学の神様と大砲を造った大実業家として取り上げた賀来飛霞と惟熊は、女優賀来千香子さんの直系の先祖に当たります。NHKのファミリーヒストリーでも取り上げられました。先日は関連イベントにご参加いただき、ご自身のルーツである本市への思いを熱く語られました。

二つ目は「囲碁」です。県庁時代に囲碁好きだった上司(後に副知事)に鍛えられました。市長就任後は日本棋院と共催により、



宇佐囲碁フェスタにて、山城宏 九段の指導碁を受ける筆者

宇佐神宮で本因坊戦、十段戦のタイトル戦を誘致するとともに、新年囲碁大会や囲碁フェスタなどを開催しました。プロ棋士による情報発信はもとより、県内外から囲碁ファンが詰めかけるなど、まちおこしに貢献しています。

三つ目は「弾き語り」です。ギターは中学生の頃、兄が弾いているのを見て覚ええました。チャリティショーへの出演依頼を受け、弾き語りを披露したのが最初です。出来栄はともかく、参加することに意義があると聞いて聞かせ舞台に立ちました。現在では他のイベントにもお誘いいただいています。ポップスから演歌まで聴き手に合わ



チャリティショーで弾き語りを披露する筆者

せて演奏しますが、市長が出るとお客さんが多いと喜んでいただけます。まさに「芸は身を助く」です。

おわりに

「一隅を照らす、これ即ち国宝なり」、天台宗を開いた最澄の言葉です。入唐の満願成就、お礼参りに宇佐神宮を訪れています。地方を取り巻く環境は、少子高齢化や新型コロナウイルスの対応など厳しいものがありますが、一番の宝はそれぞれ置かれた立場で精いっぱい努力している市民です。これからも市民ファーストの精神で、より良い市政を目指してまいります。